

「竹工芸の表現の可能性」

四代田辺竹雲齋（竹工芸作家）

竹工芸は2002年ごろからアメリカを中心に、欧米から高い評価を受け、新しいコレクターが増加した。2017年にはメトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）において展覧会「Japanese Bamboo Art: The Abbey Collection」、また2018年にケ・ブランリー美術館（パリ、フランス）にて展覧会「FENDRE L'AIR Art du bambou au Japon」という、日本の竹工芸展が開催されている。なぜ竹工芸が注目されるのか。作家は何を表現すべきなのか。大阪の堺で四代続く竹工芸の技術を継承し、海外で新しい造形表現を発表する現在の活動を紹介する。竹という素材の特性は制約ともなるが、これにより新しい技術を生むこともある。竹工芸作家として、COVID19流行後の状況を見据えた新しい竹工芸の可能性について展望する。